

「いやあ、中曽根が喜んだのなんの……」「……こういうのを“転向”というんだ……」



国鉄改革労働組合協議会を結成して握手する、左から古川・真国委員長、滝口・全池労働書記長、杉浦国鉄総裁、志摩・鉄労組合長、松崎・動労委員長＝東京・飯田橋のホテルで

# 国鉄労働者を当局・資本に売り渡す裏切り者・松崎！

# 松崎明動労委員長

「鬼の集団」代表から、暗黒の敵に  
「鬼の集団」代表から、暗黒の敵に

国鉄の分割・民営化……。戦後政治の総決算。を目指す中曽根首相の最大の政治目標である。これを成し遂げるまでには絶対、総理大臣の座は渡さざる。そして、さういふ大事な政治目標なのである。

だから、304議席は、彼にとって、この上ない強い味方となったのだ。だが、ここへきて、さらに強い味方が現われた。

その人の名は！ ジヤーン！ 自称・元革マル派幹部の松崎動労委員長でいっ！

動労（国鉄動力車労働組合）は、つい、この間まで、政府自民党の敵だった。ストをバンバン打ち、ヘルメットと覆面スタイルで合理化反対デモをぶちかます戦闘的労働者軍団だった。パトナーの国労（国鉄労働組合）が、ちよっとでも日和らうものなら、「この軟弱組合！ 闘う労働者を裏切るな！」などと叱咤していたものだった。

その、鬼の動労・委員長が、一転、中曽根の提唱する分割・民営化に積極的に協力しはじめ

## 日和見なヤツ



ただのだから、いやあ、中曽根が喜んだのなんの……。

国鉄総裁と握手はするわ、かつては「御用組合を解体しろ」と攻撃目標にしていた鉄労（鉄道労働組合）に出かけて行って「私が悪うございました。反省するから、これからは一緒に仲良くやりましょう」と頭を下げるわ、今も分割・民営化に反対している国労に対しては、組合員の切崩し工作を仕掛けるわ……。

こういう場合、古い思想用語では「転向」と呼び、たいていはバカにされてシボクレしてしまふものなのだが、松崎サンは「元気の出る転向」をしてしまつたらしい。

「雇用の確保が第一ですからね。現実の重視、いわば思想との訣別ですよ」（松崎サン）  
そっかあ。思想を捨てることか、元気の素、だったのかあ。かつては動労の地方組織で、その後、動労から独立した千葉動労（国鉄内の最過激派）の中野洋委員長は言ひ。

「いや、彼の場合、元気というより、心の中には木枯しが吹いてると思ひますよ。労働者を裏切つて自己保身に走つてるわけだから。」

権力に近づいて今の地位を守つてるわけだけど、しよせん権力は利用し終わつたら彼を捨てますよ、哀れですね！  
・武士は食わねど高揚子、太つたブタより、やせたソクラテス、思想を捨てた（？）ことで元気になるんなら、社会党の病弱はいつたいたいなんだよ、松崎委員長サン！

## 動労革マル延命のためにはどんな裏切りも辞さないやろ

方で動労を第三鉄労・動労解散、国労解体・総評解体・全労協（産業界報国会化）への道へとひきずり込んでいった。暴力と組合機関を利用して組合のファンタスティックなひきまわして組合員のいっさいの疑問・反抗を圧殺したうえで、労働者は、資本家の奴隷になれば、自分の生活や生命を守ることができぬ。などと組合員を松崎はたぶらかしてきた。

## こんな腐敗し切った裏切り分子を どうして許せようか！